

車座会議（高知県四万十町）

1. 日時、場所

平成24年4月25日（月） 13時30分～15時30分
窪川四万十会館 多目的室

2. 参加者

地元の若手・女性の中小企業経営者等 50名

3. 参加者の意見

（1）出された意見数（課題別）

全体意見数	21
資金調達	2
経営指導・経営支援	6
技術力・人材（技能承継等）	1
取引関係（下請取引・流通構造等）	0
販路開拓（海外展開等）	0
若手・青年層の活力発揮	2
女性層の活力発揮	0
「地域」の中の中小・小規模企業（商店街等）	7
その他	3

（2）主な意見

【資金調達】

- ・融資をうけて店舗を修繕したが、1カ月もしないうちに返済が始まり苦しかった。2～3か月後に返済が始まるようにしてくれれば、随分と余裕ができると思う。

【経営指導・経営支援】

- ・土木や農業関係とは異なり、水産関係、特に養殖業については殆ど補助制度がないというように、業種によって受けられる支援に大きな差があるため、是正してほしい。
- ・農業の6次産業化にあたっては、1次産業従事者がいきなり2次産業に進出することは困難。商工業等との横の連携を強化していくことが重要。
- ・行政の施策を知ることで、「こんな支援策があるのならチャレンジしたい」というように新しい発想も出てくる。施策を知らない人も多いので、周知・

普及が重要。

- ・雇用関係の助成金は、実績を確認した上で1年後等に支払うのではなく、雇い初めの時期に支払われる方が、有効に活用されるはず。改善を望む。
- ・全国一律の補助制度ではなく、地域の特色を生かした補助制度があってもいいのではないか。

【技術力・人材（技能承継等）】

- ・若手を育成し技能を承継したいと思っても、育成期間中の人件費の負担が苦しく、断念してしまう。教育期間中の負担が軽減されるような補助制度を望む。

【若手・青年層の活力発揮】

- ・若者が地域に残らないのは、住んでいて楽しくないから。皆が集まって楽しめる、寄り合いのような場が必要。

【「地域」の中の中小・小規模企業（商店街等）】

- ・地域では、道の駅等は多額の予算が投入され、規模が拡大している一方で、地域の商店は設備投資も出来ず、格差が生じていることは問題ではないか。
- ・商店街は、診療所等の社会資源が豊富。福祉団体と既存の商店が連携し、商店街一体となって「福祉のまち」を作るという視点も有効。
- ・人口が減少すると商店街は成り立たない。インターネット販売や海外展開にも限界がある。UターンやIターンを増加させる取り組みなど、地域の人口減少に対する根本的な施策を打つことが一番重要。

【その他】

- ・労働法制をはじめ、経営者が困らせる政策が多いように感じる。労働者の権利保護も重要だが、経営者保護という視点からも制度を見直してほしい。
- ・消費税が増税された場合、増税分を商品価格に転嫁できるのかどうか心配している。また、もし増税するならば、移行期間をきちんととっていただきたい。